2026/秋/No.125
来ぶらり

特集

国際文化交流学部図書センターに行ってみた!



国際文化交流学部図書センターとは

国際文化交流学部図書センター（以下、国文図書センター）は、学習院大学戸山キャンパスに位置する図書館です。本学の学生なら誰でも利用することができますが、まだ利用したことがない人もいるのではないでしょうか。

国文図書センターの歴史は、1950年の学習院大学短期大学部設置まで遡ります。「学習院図書館戸山分館」として女子部と共用していた図書館は、1971年に「学習院女子短期大学図書館」に独立し、1998年に4年制への改組にともない「学習院女子大学図書館」となりました。そして、2026年4月に「学習院大学国際文化交流学部図書センター」としてのスタートを切りました。

現在の建物は1982年に建てられ、自然光を取り入れた開放感のある美しい建物で、1985年の第1回日本図書館協会建築賞の優秀賞を受賞しています。アットホームな雰囲気の図書館で、静かに落ち着いて勉強することができます。写真の階段を上ると入口があり、1階、2階部分が国文図書センターです。

国文図書センターの蔵書数は約23万冊。日本文化や英語学習、国際関係の資料をはじめ、学習院女子短期大学時代の学部構成から、服飾、食物などの家政系分野を多く所蔵しています。また、司書課程は戸山キャンパスでの開講のため、司書課程履修者のための蔵書も充実しています。

次ページ以降、おすすめスポットやサービスについて紹介します！ふだん国文図書センターを利用したことがない人も、今号を読んでぜひ一度行ってみてください！



国際文化交流学部図書センターはこんなところ
（国文図書センター）

さくまサンが
オススメスポットを紹介！

オススメスポット1
1階雑誌書架

閲覧カウンターから右手に進むと、雑誌の表紙が壁一面に並ぶ棚が見えてきます。学術雑誌を中心に最新年の号を読むことができます。一般雑誌は学内Wi-Fiに接続して、dマガジンからお楽しみください（国文図書センター館内限定）。



オススメスポット2
個人ブース等、集中できる閲覧席

1階の参考室内に、予約制の「個人ブース」が3室設置されています。発話可能な個室でWeb面接なども行えます。

その他、予約制の半個室型個人キャレル（発話不可）も13席あります。

また館内の閲覧席は全て仕切りがついているので、どの席でも隣の人を気にせず集中して学習することができます。



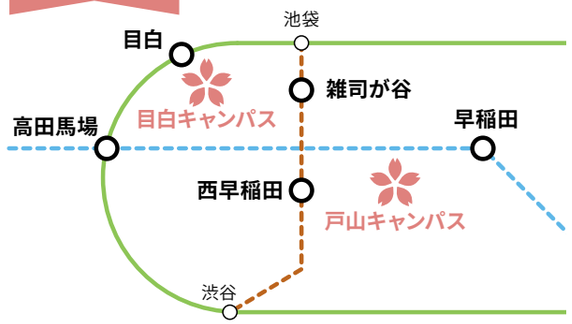
オススメスポット3
2階吹き抜け展示

2階の吹き抜け回りは、資料展示コーナーになっています。その時々のタイムリーな話題や役に立つものなど、時期によって展示する資料を変えています。

一冊ごとにPOPがついているので、選ぶときの参考にしてみてください。



COLUMN 1



目白キャンパスから戸山キャンパスへの移動は、東京メトロ副都心線　雑司が谷駅から西早稲田駅を使うのがおすすめです。他、JR山手線高田馬場駅からも徒歩15分ほどです。

電車を使わずに、徒歩でも行くことができるので、お散歩ついでにいかがでしょうか?

COLUMN 2



国文院生・教員は国文図書センターの書庫に入ることができます。それ以外の方は、OPAC検索結果に「戸山8国文図・書庫」とありましたら、検索結果画面から請求票を出力し、必要事項を記入した上で、国文図書センターの閲覧カウンターへ申し込んでください。

こんな本もあるよ！





『新しい図書館でイベントを企画する：石川県立図書館の挑戦』（図書館の現場10）
田村俊作監修；宮原佑介，空良寛，長谷部涼子著
勁草書房，2026.5
戸山8国文図・2F開架
015.8/5

2022年に開館し、年間200回以上に及ぶイベントや展示を開催して多くの来館者を集めている石川県立図書館の取り組みを記録した本です。

本を読むきっかけ、図書館に来るきっかけになるような多様なイベントを、どのように企画し開催しているか、舞台裏が覗けます。図書館に関わる仕事に興味のある方におススメです。



『食文化とおもてなし』
山上徹著
学文社，2012.2
戸山8国文図・2F開架
383.8/313

日本の食文化と日本のおもてなしについて、ライフスタイルの側面からみた食文化の変遷や、年中行事や冠婚葬祭についての文化、おもてなしについて述べられています。国際文化交流学部では食文化のみならず、茶道や華道、有職故実といった日本の伝統文化の理解を深めるための講義を多数開講しています。

©'12,'26 Gakushuin

目白 ⇔ 戸山 便利な使い方

•資料取り寄せサービス

目白キャンパスと戸山キャンパス間で資料の取り寄せサービスを行っています。OPAC検索画面から、「予約」ボタンを押してオンライン上で手続きができます。定期便は開講期であれば週3回運行し、到着日の翌日から、休館日を除く3日間取り置きます。

※戸山キャンパス所属者は、大学図書館・法経図書センター所蔵資料が取り寄せ可能です。また、配置場所が「哲学科」「ドイツ」「フランス」の資料については、国文図書センター1階閲覧カウンターで申し込みをして取り寄せが可能です（一部制限あり）。

•どこでも返却

大学図書館・法経図書センター・理学部図書室・国文図書センターの4館で貸し出した資料は、所蔵館にかかわらずどの館でも返却できます。

文学部各学科・附置研究所図書室の資料は貸出手続きをした館に返却してください。

CD、DVD等は借りた館のカウンターへ直接返却してください。

また、返却ポストに返却した場合、回収時間により返却処理されるまでに時間がかかります。急ぎの場合は直接所蔵館へ返却しましょう。

わたしの本棚

国際文化交流学部・英語コミュニケーション学科
ウィン グン 教授



高校時代、アメリカの地元の図書館で「Library Page」としてアルバイトをしていました。主な仕事は、利用者が返却した本を元の棚へ戻すことです。この仕事を通して、図書館で広く用いられている Dewey Decimal Classification（デューイ十進分類法）を学び、本を体系的に整理する習慣が自然と身につきました。その経験から、現在の研究室の本棚も、参考書、語学、ビジネスなど、ジャンルごとに分類して並べています。

本棚の中でも特に愛用しているのが、マイケル・スワン著『Practical English Usage』です。辞書だけでは解決できない英語の細かな用法や語法の違いを、豊富な実例とともに分かりやすく解説した実践的な参考書で、英語教育に携わる私にとって欠かせない一冊です。



もう一冊のお気に入りは、孫子の『兵法』です。古代中国の兵法書ですが、その本質は単に戦いに勝つための技術ではなく、人や組織を理解し、状況を的確に分析して最善の判断を導くための知恵にあります。中でも有名な「彼を知り己を知れば、百戦殆うからず」という言葉は、相手を理解するだけでなく、自分自身を深く知ることの重要性を説いています。この教えは、人間関係や教育はもちろん、ビジネスにおける戦略の立案や意思決定にも通じる普遍的な考え方であり、今でも私に多くの示唆を与えてくれています。

来ぶらり（らい） No.125 2026年11月16日
学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
発行責任者 ：図書館長 山田澄生 編集委員 ： 生田陽子・宮原優
総合カウンター （内線 2397）：☎ 03-5992-1009（直通） レファレンスカウンター（内線 2396）： ☎ 03-5992-9249（直通）
「来ぶらり」のバックナンバーは大学図書館Webサイトで公開しています。
ISSN 2186-6724